



月	火	水	木	金	土	日
		1	2 陶芸教室 夜間開放	3 薪クラフト	4 薪クラフト	5 薪クラフト
6 祝日 開館	7	8	9 陶芸教室 夜間開放	10	11	12
月火曜日は 休館日		15	16 陶芸教室 夜間開放	17	18	19
20	21	22	23 陶芸教室 夜間開放	24	25 わくわく	26
27	28	29	30 陶芸教室 夜間開放	31		

開館時間 9:30~17:00 ※(木)のみ~20:30

今月のご案内

わくわく土曜日ランド

〈春の山菜*クッキング〉

山菜をとって、たべて、黒松内の春の森を味わおう!

※何を作るかは当日までのおたのしみ!

【日程】5月25日(土)

【時間】10:00~15:00

【集合】ブナセンター 9:55/町民センター9:45

【定員】10名 【参加費】300円

【対象】町内小学生(初参加の1年生は、保護者同伴)

【持ち物】野外で活動できる服装、汚れても良い靴、軍手、リュック、エプロン、三角巾、軽めの昼食、水筒

【申込み】4/25から前日17時までに
ブナセンターへ電話にて

【その他】荒天の場合中止

GW特別 木工房メニュー 〈薪クラフト〉

【日程】5月3日~5月4日 ★詳しくはブナセンター

【申込み】前日17時までに Facebookをご覧ください。
ブナセンターへ電話にて

工房からのお知らせ

ブナセンターには3つの工房があります

木工房：開館時間中は随時利用できます

陶工房：初めての方は教室にご参加ください

食工房：主に町の農家さんが冬期間に糀や味噌、豆腐を作ります(興味のある方はまずは見学を)

使用料 210円(大人1名2時間)~
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります

毎週木曜日 18:30~20:30

材料費は
かかります

陶芸教室 初心者向けの教室です(予約制)

毎週木曜日 13:30~15:30
18:30~20:30

参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに
3回の来館が
必要です

工房利用についてくわしくはお問合せください

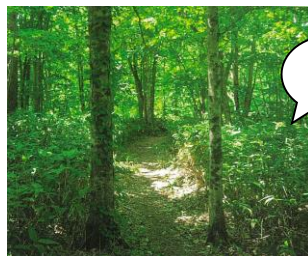
〈令和6年度発行予定〉

注目! 全国の教科書に黒松内のブナ林の写真が掲載されます!

町内の小学校でも採択されている教科書、『新編 新しい理科4(東京書籍)』に黒松内町の歌オブナ林の写真が掲載されています。

季節や気温の変化に伴う、生き物の様子の変化を調べる「あたたかさ生き物」という単元で、夏と秋のブナ林の写真が掲載され、季節によってその様子がどう変わるのか比べられるようになっていきます。

全国の風景と比べても、ブナ林の季節の変化は特にわかりやすく、鮮やかで美しい事がわかります。



夏 P69



秋 P109

※どちらも歌オブナ林の様子です。

小学校で使用されている教科書は、マナヴェールでも閲覧できます。



昨年度はブナセンター30周年。皆様のご支援・ご協力に感謝の年でした。

これからは歌オブナ林天然記念物指定100周年(2028年10月22日)へ。あと4年です!



Facebookはこちらから

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP http://bunacent.host.jp
FB http://facebook.com/kuromatsunai.bunacent

黒松内町では、生物多様性の保全・活用に寄与する研究への助成をおこなっています。

今年度の成果発表会では、令和5年度ブナセンター賞受賞者・前田唯眞さん(北海道大学)と、令和4年度ブナセンター賞受賞者・天池庸介さん(北海道大学)の発表がありました。昨年に引き続き、町民センターとオンラインでのハイブリッド開催となり、町内外から50名近く参加者が集まりました。

令和5年度受賞者・前田唯眞さんの発表（中間報告）

「黒松内ブナの祖先は最終氷期の北海道に分布していたのか？」

北限のブナのDNAを解析し、最終氷期に黒松内のブナの祖先は北海道にとどまっていたのか？北限の環境にどのように適応してきたか？を明らかにしようとする研究です。今回は、気候変動によるブナ北限の移動の歴史や、DNAを用いた解析方法についての解説、研究計画のあらましを発表していただきました。

質疑応答では「仮説として北海道にブナのレフュージア（逃避地）があったと考えるか？」という質問に対して、「あったら面白いと思う！北海道のブナに独自性があるという事になるから」と、満面の笑顔で答えてくださいました。今後の研究結果が楽しみです。



会場の様子



授賞式・町長から前田さんへ

令和4年度受賞者・天池庸介さんの発表（成果発表）

「黒松内低地帯の哺乳類相とその遺伝的多様性」

昨年から継続されている、黒松内の哺乳類に関する研究の最終報告をしていただきました。黒松内町にはどのような哺乳類がいるのか？それらは遺伝的に多様か？それらはどこから分布を広げてきたのか？等を探る研究です。

町内各所に仕掛けたカメラトラップに映った動物の記録や、採集した糞をDNA解析した結果から様々なことを分析、解説していただきました。その一部をまとめると・・・。



天池さんの発表

黒松内で見られた哺乳類ランキング

(夏～秋)

- | | |
|---------|-----------|
| 1.キツネ | 6.テン |
| 2.タヌキ | 7.その他イタチ科 |
| 3.エゾシカ | 8.ユキウサギ |
| 4.アライグマ | 9.ヒグマ |
| 5.エゾリス | 10.シマリス |

質疑応答では「黒松内低地帯で動物たちの遺伝構造が変わる原因として、ブナは関係するのか？」という質問に対して、「周囲と植生が異なると、植物を食べる動物や昆虫の構成が変化し、さらにそれらを食べる動物たちの食べ物の好みによって地域の動物たちの遺伝構造に影響する可能性はある」とのこと。他にも様々な質問に答えていただきました。

キツネの遺伝構造が黒松内低地帯を境目に変わる？

道南と道央のキツネの集団には地理的障壁などの何らかの要因で黒松内低地帯を境目に遺伝子的に明確な違いがあるのでは？と予想されていました。最終報告では、**明確な違いがあるわけではなく、徐々に遺伝的な構成が変化しているのではないか**という結果となりました。

★ブナセンターHP上に当日配布資料（PDF）を掲載しています。（5月末日まで）かんたんな用語解説もありますので、併せてお読みください。

アライグマのこと

町内での分布は？

黒松内岳、小川ブナ林（東川地区）と比較すると、**歌オブナ林**での出現頻度が高いようです。

どこからやってきた？

人為的に各地に持ち込まれた外来種アライグマ。黒松内のアライグマは、後志経由ではなく、**胆振**から来た可能性があるようです。